

概要

福島民報社が事務局を担っている「ふくしまキッズ博実行委員会」では、東日本大震災後の原発事故により遊び場を失った福島の子どもたちに思いきり遊べる場を提供すると同時に、子どもたちの今を全国へ発信するシンボルイベントとして、震災翌年の2012年から「ふくしまキッズ博」を開催しています。夏休み期間中の2日間、福島市内の総合体育館内に巨大な遊び場を開設して体を動かしてもらいます。入場は無料です。

県の関係機関や、被災地から避難してきた自治体、地元大学、日本玩具協会や国内玩具メーカーなどの協力のもと、子どもたちはたくさんのおもちゃやゲームで思う存分遊べます。また、県内の大学生による創作遊びや絵本の読み聞かせなど、親子で一緒に楽しむコーナーも設けています。

2012年の第1回では、2万4,000個の丸餅を並べて64㎡の世界最大の丸餅モザイクアートを描く「ギネスに挑戦」を実施。また福島市内46保育所の園児2,966人の手形で作った巨大アートなども展示しました。開催期間中、県内各地から約3万6,000人の親子が参加しました。

2013年7月開催の第2回には2日間で約2万3,300人の親子が来場。同年秋から冬にかけては、キッズ博にボランティアとして参加していた大学生による「ミニキッズ博」を福島市内の各所で行いました。

企画が生まれた背景や意図・ねらい

福島県では、原発事故による放射線の影響で多くの子どもたちの屋外活動が制限され、幼稚園児などが肥満率で全国ワーストワンになるなど、子どもの発育にとって深刻な状況に陥っていました。そこで、不安を抱えたまま子育てをしている保護者とその子どもたちを支援し、心身のバランスがとれた健全な子どもの発育に寄与するため、子どもが室内で思いきり遊べるイベントを企画することとしました。

反響

遊び場を制限されて精神的にも肉体的にもストレスを感じていた子どもたちに、思いきり身体を動かして遊べるスペースや、親子で楽しめる創作コーナーを提供することで、震災以降、子どもの成長に不安を抱えていた保護者を支援することが出来ました。ボランティア大学生らの企画で「ミニキッズ博」が開かれたことは、地域が一体となり子育てを支援する機運が巻き起こった証しであると考えています。



「ふくしまキッズ博」の開催を知らせる紙面サイズのチラシ



こども鼓笛隊による演奏ステージ



三輪車コーナー



トランポリンコーナー



アスレチックコーナー

心身の
バランス
とれた
育ちに
寄与